

## 留学経験を生かし、 韓国と日本の 架け橋的な役割をしたい。

今回は韓国から本学に留学し、母国に戻って活躍している校友を紹介しよう。

曹大鉉さんは株式市場や国際マーケットを勉強するため本学に留学し、現在は韓国のトップクラスの証券会社の支店長として活躍している。韓国の株式市場の現状、また、留学での大変さなどのお話をうかがった。

### 大切なのはお客様の役に立ち、 株式市場の発展に貢献すること。

高校を卒業して韓国の証券会社に勤め、それから専修大学に留学しました。私が日本に留学した1986年頃は円高の影響もあり、生活は苦しかったですね。大学卒業後、韓国と日本の架け橋的な役割をしたいと思い、韓国に戻りました。今の会社は株式や投資信託を扱っている証券会社で、最初は国際営業部に配属されました。国際営業部には、さまざまな国を担当するスタッフがいて、私は日本や英国の機関投資家向けの資料作成、成長性の高い韓国企業のリサーチなどを担当しました。その後、支店での営業を経験し、現在は光明支店の支店長を務めています。お客様は個人が約6割、残りが法人です。

日本では個人投資家が、手数料の安いネット証券を利用するようになっていそうですが、韓国でも同様です。私の支店でも売上、収入は減少しています。そのための対応策として、お客様からお預かりした資産を、着実に増やすことができるような提案をしています。方策の一つとして、当社では投

資する企業や市場環境のリサーチ部門を充実させ、企業調査・分析の専門家であるアナリストのレポートやアドバイスを参考にして、お客様にご提案しています。今後も韓国株式市場は成長すると思いますので、お客様の資産を増やすお手伝いを地道にやっていきたいと考えています。

### 苦手な「納豆」も食べられる ようになり、困難を克服。

留学した当時の話をしますと、私は商学部商業学科に入学しました。その理由としては、韓国で証券会社に勤めていた経験があり、日本の株式市場や国際マーケットを勉強したいと思ったからです。日本で勉強するにあたって難しかったのは、日本語が良くできなくて、自分の言いたいことをあまり表現できなかったことですね。1年くらいつと少しずつ話せるようになりましたが、苦労したのは日本の食べ物が、口に合わなかったことです。食べられるように努力して、だんだん慣れてくると、普段の生活も落ち着いてきました。

苦手だった食べ物の一つが納豆で、最初はまったく食べることができませ

### 曹大鉉

韓国投資証券株式会社  
光明支店長

チョウ ディヒョン●1990（平成2）年、商学部商業学科卒業。1958年生まれ。韓国ソウル特別市出身。卒業後、韓国に戻り、韓国投資証券株に入社。国際営業部、支店の営業を経て現職。



んでした。でも、日本で勉強するためには何でも食べなければ……と思い、必死で努力しました。最初は、納豆の臭いが我慢できなかったですね。食べることができるようになったのは、商学部の韓国人の同級生の家に遊びに行き、食事のときに納豆を出されたことが、きっかけでした。韓国の辛いものをかけ、なんとか食べることができました。2回目は新潟に実家がある、同級生の家に行ったときに食べました。観光旅行などで日本に来ていたら、納豆は食べなかったと思います。でも、日本で勉強するために、生活するために、何でも食べなければと思い、食べられないものも食べることができるようになりました。

振り返ると、日本をはじめ海外で勉強することは視野が広がります。留学は正直言って楽ではありませんでしたが、それを乗り越えたことが、いまの自分につながっていると思います。当時の同級生とは、おつきあいはほとんどなくなってしまいましたが、この「われら専修人」を機会に手紙やメールなどをやりとりできると、うれしいですね。（談）